

近大マグロ



近大マグロの紹介

近大マグロとは、近畿大学水産研究所が世界で初めて完成させた、完全養殖マグロのことです。近大マグロは稚魚を養殖したこれまでの養殖マグロとは異なり、人口孵化させた完全養殖マグロなので、マグロ資源の減少を防ぐとして注目されています。



さて、近大マグロについては、おわかり頂けたと思います。やはり気になるのは味だと思えます。近大マグロの味に関してはいろいろな意見があるようです。二〇〇二年の完全養殖が成功したばかりのころは、脂っぽいなという声が多かったようですが、研究を重ね、今では天然ものともあまり差がないという声も多々あります。しかし、味に関しては好みがあるので、身の締まりが悪いという意見もあれば、脂が丁度よくのっているという、たような意見もあるようです。

天然マグロの数を減らさずに供給でき、安全に育てられていることを考えると、完全養殖で天然ものよりも変わらぬマグロを育てられることは、世界にも通用するすごいことだと思います。

近大マグロの歴史

一九七〇年…水産庁が有用魚類大規模養殖実験事業を開始。
近畿大学は、和歌山県串本町大島に実験基地を開設し、養殖実験を始める。

一九七二年…水産庁の「有用魚類大規模養殖実験」終了。

一九七四年…ヨコワの生存に成功。

一九七九年…六月二十日、世界で初めて、養殖マグロの自然産卵に成功。

孵化仔魚が数日後には全滅してしまう問題が発生。

一九八三年…この年からマグロが産卵しなくなる。

一九九四年…七月、十二年ぶりにマグロが産卵。

一九九五年…初めて「沖出し」に成功。

八月に台風11号が和歌山県を直撃し、養殖していたマグロに被害。

二〇〇二年…六月二十三日、養殖していたマグロが産卵。
(完全養殖に成功)

二〇〇四年…九月三日、三尾が初出荷。

二〇〇九年…過去最高の生存率20%を達成。

ヨコワとは？
ヨコワとは黒マグロの若い魚のこと。

近大マグロ 養殖方法!

1. 産卵・採卵

近大の養殖場で成熟した親マグロが生け簀で産卵する。



2. 孵化 (生存率70%以上)

採卵した卵を、環境を整えた水槽で32~35時間管理すると、孵化する。



3. 初期飼育

孵化した稚魚に、動物プランクトンやイシダイの稚魚などのエサを与える。



4. 沖出し・中間育成

約1ヶ月で5~6cmに成長した稚魚は1匹ずつ丁寧にすくい上げられ、海上の生け簀へ

生存率約3%

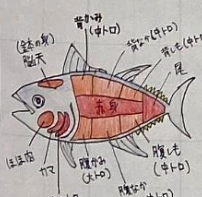
5. 成魚飼育

約3ヶ月で500~700gまで育つと養殖用の生け簀へ移動する。



3~4年で40~60kgの立派なマグロに!

マグロの部位
近大マグロをもっと知るためには、マグロの部位を知る必要がある。



研究本部の紹介
一九四八年十二月に白浜臨海研究所として開設された一九五四年に網いけす式養殖法の研究に着手し、養殖法が数年後には産業化し始め、現在の海水魚の大部分はこの方式を養殖されてあり、さらに世界の田舎へも普及している。

有用魚類を飼いながらして養殖種技術を開発し、それらを親に育て卵をとり、仔稚魚を育成する完全養殖の研究を進展させ、さらにそれらの海水魚について選抜や交雑による有種の研究にも取り組んでいる。

次頁料一では、天然種苗活込み数全国五位
人口種苗活込み数全国三位、次頁料二の出荷尾数は全国七位になる。資料三の出荷重量では、こちらも七位になった。(H23年調べ)



近年、クロマグロの養殖生産量が増加、二万トンに迫る勢い。

クロマグロの養殖をめぐる状況